

第1章 分析・評価の手法

ここまでは近年の鉄道の投資に対する環境の流れや、投資に対する問題点を概観してきた。ここからは、具体的な投資例から投資が行われた背景と投資の概観を知り、投資の中でポイントとなるところを洗い出し、その投資についての分析を行い、その分析に対し適宜コメントを行った後、分析に基づいた評価を行う。具体例は、鉄道輸送の役割をいくつかのパターンに分類した上で、性質が異なると考えられる5つの事例を取り上げることとする。

これまでの当研究会の一橋祭研究では、事実の洗い出しについては精確に行われたが、それを分析及び評価する作業というのは、行われていたとしても事実の洗い出しに付随するような形になりがちであった。しかし、社会科学の総合大学を標榜する一橋大学の鉄道研究会の研究として、よりふさわしい研究誌を作成することが望ましいため、今回は「分析」と「評価」という独立した項目を設け、コスト削減、利用者へのサービス向上、を正方向に持つ2つの軸からなる表(表2-1-1、この表を「投資傾向分布図」と名づける)を作成した。そして、各個人が研究した投資プロジェクトの一つ一つについて、そのグラフのうちどの範囲に位置するかを示し、グラフ全体を見たときに一つ一つの投資の位置づけが一目でわかるような仕組みにした。

どの範囲に位置するかは、可能な限り客観的事実により分析及び評価したが、読者の皆様の中には違う範囲に位置するのではないかと考える方もおられるかもしれない。しかし、分析・評価は執筆者の主観によるところも多少あるので、その点は予めご了承願いたい。

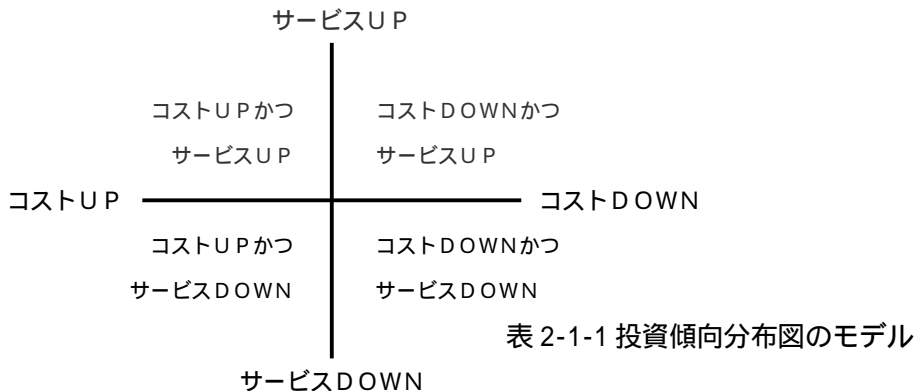


表 2-1-1 投資傾向分布図のモデル